



土浦平和の会

ニュースNO・36 1996年11月

発行 土浦平和の会
事務局 土浦市神立町2 6 6 4 2
TEL 3 1 91 22



沖縄を訪ねて:

いばらきコープぽっぽの会会長

土浦平和の会会員 合田 さだ

沖縄県生協連の大たちにいっぱい一杯お世話になりながら、戦跡・基地を見て回り、また、沖縄の歴史文化にも触れて沢山考えさせられました。

この前の戦争で長期間の地上戦が戦われ、一般住民が多数巻き添えになった場所は沖縄のみであった。今回、この地に行ってみて、ここで一般の大たちが戦争の現場に巻き込まれたという体験者の話を聞き、現地を歩いて実感しました。戦後米軍によって基地が作られ存続していること、さらに、その大たちは占領軍と駐留軍によって損害、迷惑を受けつづけている。数人の人の証言を聞くことができました。

戦場となったときの話。生死の境をさまよいながら母親として幼い子と年寄りを守るために苦しみ悲しみながらの地獄の戦場での避難の毎日を語ってくださった語り部の方。15人家族が4人だけになってしまったそうです。同じ女性として母親として身につまされる思いで、涙して聞きました。どの方も、今自分たちが正しい歴史(事実)を伝えなければという使命感に燃えて、辛い話を語ってくださいました。

沖縄の大たちが日本に復帰したいと望んだ一番の理由は、すばらしい「日本国憲法」があるからだそうです。にもかかわらず、復帰後の沖縄は膨大な基地が置かれ、基地から発するさまざまな事件・事故に苦しめられ、不安におびえながらの生活が続いています。どうすれば沖縄に暮らす人々の負担を軽減することができるか、私たち一人ひとりが避けてはならないと思いました。マスコミはもっと沖縄の基地による事故・事件を本土の大たちに報道すべきであったと気がつきました。また、アメリカの大たちにも沖縄の現状を知ってもらい、一緒に考えてもらうことも基地を無くしていくための方法ではないでしょうか。

あちこちに塔や資料館が建てられています。50年目の昨年、平和の尊さを再確認するために建てられたという「平和の礎」が平和記念公園の中にあります。国籍・軍・民間・敵・味方を問わず沖縄戦で亡くなったすべての人々の氏名が刻まれています。沖縄の大たちが戦争の教訓を守り続けていることがわかります。平和を考えると、平和憲法もだいじですが、まずは各人が常識ある心になることが先決であると思いつながり帰ってきました。やはり「百聞は一見にしかず」です。是非沢山の人が沖縄を訪ねてみられることをねがいます。

沖縄連帯新聞意見広告募集中

新聞社 朝日または茨城新聞
掲載日 1月3日朝刊茨城版
ページ数 1ページ全面
募集人数 3000人
費用 1人1000円

各理事が取り扱っていますので積極的にお申し込みください。

行事ごよみ

- 10月25日 平和の会理事会(1中地区公)
- 11月7日 平和の会理事会(1中地区公)
- 11月17日 百里1坪地主会(百里基地旧射撃山)
- 11月22日 日本平和大会(裁京横田基地周辺)
~24日 (横田基地調査を含む)

沖縄遜帯署名にご協力(ください)

茨城の165(在住・出身)の呼びかけに応えて茨城県平和否員会は50000人署名運動に取り組んでいます。土浦平和の会では600人を目標にしています。会員こそってご参加(ください)。

いかずち第2号

(茨城県平和否員会機関誌)をお買い求め(ください)。

A5版114ページ

1冊600円です。

各理事び取り扱っています。

